

1. 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	4079800191		
法人名	社会福祉法人 福智会		
事業所名	グループホーム ふくち		
所在地	福岡県田川郡福智町弁城4193-28 (電話) 0974-22-2101		
自己評価作成日	令和 2 年 8 月 30 日	評価結果確定日	令和 2 年 12 月 7 日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点（事業所記入）】

利用者の高齢化での体調の変化で長年の目標の“一人ひとりの生きがい作り”では、今まで出来ていたことが出来なくなって行く事が増えてきましたが、一人ひとりに合った生活・生き方を模索し、全体での活動にも重点を置いていくようにしています。現在18名中、100歳代が2名、90代、12名であります。皆さんとても元気に過ごされています。毎月の‘畑の日’ ‘ふくちの日’ の地域交流も定着してきています。身近な地域のホームとして皆様に親しんで頂けるよう努めています。

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	http://www.kai gokensaku.jp/
-------------	---

【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	社会福祉法人 福岡県社会福祉協議会
所在地	福岡県春日市原町3-1-7
訪問調査日	令和 2 年 9 月 18 日

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点（評価機関記入）】

福智山麓の自然が豊かな地域にあり、隣接する特別養護老人ホームと同一法人であり、災害時や法人事務等で協力体制がある。地域とは民生委員や地域の老人クラブの方が毎月第3土曜日の交流行事「ふくちの日」に参加され、第2日曜日に「畑の日」があり、畑で野菜作りなどで利用者との交流がされている。グループホームでは年間16回のバスハイクがされるなど 生活の質の充実に力を入れている。

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
【 I 理念に基づく運営】					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	“人権尊重”“能力発揮”“地域交流”の3本柱で成り立っている。実践のため年度目標を定め職員と共に、日々のサービス提供に努めている。	理念を記載した文書は玄関に掲示され、職員会議時などで内容を説明され、利用者の権利擁護と地域交流、能力の発揮について確認している。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	新型コロナウイルス発症前は、小学校、保育園からの行事への招待はあったが、現在は、月1~2回の老人会の方やボランティアが参加される畑の日のみになっている。	毎月第3土曜日の交流行事「ふくちの日」、第2日曜日に「畑の日」があり、近隣の方が来られて、園庭の畑を整備したり、収穫をしたりして、交流が図られている。	
3	—	○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	ホームと地域の窓口になっている“ふくちの日”に民生委員の方に参加して頂いていたが、新型コロナウイルス緊急事態宣言からは電話などでホーム内容等を伝えている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議にて提案された内容については、前向きに対応しサービスの向上に努めている。	運営推進会議は2月ごとに開催されている。近隣の老人クラブの代表者や利用者、家族が参加している。利用者意見により施設内の生活が安全で快適になる工夫がされている。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進会議を通じて行政担当者や包括支援センターの担当者と意見交換を行っている。	定期的な運営推進会議のほか、施設行事のお知らせや利用者の状況について、行政訪問や電話などで伝えて、協力関係を築いている。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	拘束廃止検討委員会を設け、身体拘束や言葉の拘束だけではなく、青アザ発生状況についても観察し青アザ予防が出来るように取り組んでいる。	職員で拘束防止委員会を設けて、定期的な会議を開き、拘束防止など具体例などについて、検討している。全職員を対象に内部研修を開催している。	

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7	—	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	拘束廃止検討委員会を設置し、様々な角度からの検討を重ね虐待防止に努めている。		
8	6	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	折に触れ、日常生活自立支援事業や成年後見人制度について話し合っている。	権利擁護に対する研修会を内部で行っている。利用者、家族とは契約時や随時に成年後見制度について、説明がされている。	
9	—	○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約または改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時及び解約時には、利用者や家族には事前に説明を行っている。		
10	7	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議に利用者代表、家族代表に出席して頂き、運営に反映させている努力をしている。家族の面会時に、意見や提案などを確認しサービスに反映している。	運営推進会議に利用者本人や家族が参加して、行事や生活内容について、意見が出されている。行事では蜷見学や道の駅へのバスでの外出希望がかなえられている。	
11	8	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員会議や委員会やその他の機会を設け職員と様々な問題について話し合っている。必要に応じて個別でも話し合いを行っている。	職員との各委員会活動や個別面談などでアンケートや聞き取りなどを通して、夜勤体制の改善などホームの運営に職員提案や意見を取り入れている。	
12	—	○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	人事考課制度を取り入れている。職員個々に応じた職務目標設定、達成度の確認・評価・面談を行い、向上心を持って働けるように環境づくりには努めている。		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
13	9	<p>○人権の尊重</p> <p>法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。</p> <p>また、事業所で働く職員についても、その能力を發揮して生き生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保障されるよう配慮している</p>	<p>職員募集・採用時には、性別・年齢を問わないようにしている。職場では職員の特性に応じた役割分担を心掛けている。基本方針として定年まで働けるようにしている。</p>	<p>職員採用に際して、年齢や性別による排除はしていない。夜勤体制の緩和策として、人員配置の増員など工夫がされている。研修や休暇等の配慮がされている。勤務年数の長い職員も多い。</p>	
14	10	<p>○人権教育・啓発活動</p> <p>法人代表者及び管理者は、利用者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる</p>	<p>人権教育の研修等には極力参加するようにはしている。利用者の尊厳に対する人権等の啓発活動については、ケアカンファレンス・朝礼・終礼を通じて行っている。</p>	<p>行政などが開催する「人権研修」に参加して、内部で伝達研修が行われている。研修報告書が記録され、内部研修も行われている。</p>	
15	—	<p>○職員を育てる取り組み</p> <p>代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>人事考課を導入している。職員一人ひとりの職務能力に応じた年間職務目標を、管理者・主任・職員面談の上で決定し年間を通して目標達成に取り組んでいる。</p>		
16	—	<p>○同業者との交流を通じた向上</p> <p>代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	<p>グループホーム協議会に参加し、各々が抱えている問題に考察を重ね、サービス向上に取り組んでいる。現在は、電話等で情報の交換をおこなっている。</p>		
【Ⅱ 安心と信頼に向けた関係づくりと支援】					
17	—	<p>○初期に築く本人との信頼関係</p> <p>サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている</p>	<p>入所相談に来られた時より、本人様やご家族が安心して話の出来る環境作り、不安や困っていること要望に傾聴していく事で、本人様が置かれている状況を理解するように努めている。</p>		
18	—	<p>○初期に築く家族等との信頼関係</p> <p>サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている</p>	<p>入所相談に来られた時より、これまでのご家族様の苦勞を労い、入所希望に至った経緯等に傾聴するようにしている。その上で、ご家族様の立場に立ち共に協力し合っていける関係作りに努めている。</p>		

項目番号		項 目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
19	—	○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	相談内容に応じ必要と思われる場合は、他のサービスの説明や他の事業所、病院等の紹介も行っている。		
20	—	○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	本人様との会話の中から生活歴や、出来る事や得意なこと興味を持っている事は、本来の力が発揮できるように支援し、居室の清掃や食事の後片付け、洗濯物干しやたたみ等を共に行くように心掛けている。		
21	—	○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	通常は、面会に来て頂く様に声掛けを行っている。特に、誕生日会や夏祭り、敬老会や家族会には参加していただけるようにしている。遠方のご家族の方には、電話や便りにて状況を知らせていたが、現在は面会も予約制の為、近くのご家族様にも電話や便りで状況を知らせている。		
22	11	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	家族や本人様にとっての関係が深い方が、気兼ねなく訪問できるように心がけ、知人や友人との交流が途切れないように支援している。	職員は利用者の古い兄弟や友人との交流の継続に気をつけている。年賀状や手紙での交流などを職員が呼びかけするなどして支えている。	
23	—	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士の関わりが深まるように、居室で過ごす事を極力控え、食堂や廊下ソファー等で過ごせるように支援している。		
24	—	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	入院や併設施設に移転されても面会に行ったり、ご家族とも連絡を取り合い訪問する機会を設けてたりして、より良い人間関係を保っている。		

項目番号		項目	自己評価	外部評価	
自己	外部		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
【Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント】					
25	12	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	日々の関わりの中で、本人様の生活・職歴・病歴・生き抜いてきた足跡等を見出し、本人様の思いや生きがい等の核心に触れることが出来るように心掛けている。	各利用者には担当者がいて、利用者一人ひとりの意向や希望の把握に努めている。意思疎通が難しい方には家族アンケートなどを通じて、意向を把握している。	
26	—	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人様、ご家族様の関わりの中で生活歴・暮らし方・生活環境を把握しサービスを提供している。		
27	—	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	利用者一人ひとりの生活リズム、体調、気分の変化を確認しながらサービスの実践をしている。		
28	13	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人様、ご家族様の要望を聞き取った後に、計画作成担当者が中心となり、カンファレンスにて協議し、本人様・ご家族様の意向に基づいた利用者本意の計画を作成している。	家族はもとより職員一人ひとりの意見を聞いて3ヶ月に1回見直しを行っている。意見を取り入れた例として、猫好きな方に猫のエサやりを計画書の中に記し、それが本人の役割分担やリハビリ効果に結びついたことがある。見直した際には、本人または家族に説明し署名捺印をもらっている。	
29	—	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個々の食事・水分・排泄・バイタル等の身体状況・日々の暮らし様子、気付きをIpadに入力し記録している。Ipadで全利用者のデータが見れるので、申し送りとして朝礼・終礼時、情報の共有し継続したケアを行っている。		
30	—	○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	利用者の状況に応じご家族と相談しながら早期の病院受診や定期受診を行ない安心した生活が送れるように心掛けている。個別ショッピング・バスハイク等を導入している為個別の要望に応じた対応をしている。		

項目番号		項 目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
31	—	○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	運営推進会議を通じ行政、地域福祉関係者より助言を頂き日々のサービスに提供に生かしている。		
32	14	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	協力病院はあるが、本人かかりつけ医があれば、基本的には医療が受けられるようにしている。	協力病院はあるが、基本的に入所前からのかかりつけ医を受診している。緊急時はもちろんのこと定期受診でも職員が送迎付添を行い、医師に日常の様子を伝えている。受診結果は必ず家族にも伝え、適切な医療が受けられるように支援している。	
33	—	○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	併設施設の看護師、協力病院看護師と連携を図っている。		
34	—	○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入院時は、病院側に本人の特徴・生活状況等を伝え認知症の進行や身体機能の低下に配慮しながら、主治医・担当SW・ご家族と情報交換を行い、早期退院に努めている。		
35	15	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化した場合は、本人・ご家族の希望を重視し今後の方針を、ご家族、主治医と連携をとりながら検討するようにしている。	重度化した場合、本人、家族の意向を確認し、同じグループ内の特別養護老人施設に入所することが出来る。主治医とも連携を図りながら進めている。全職員が状況を把握できるように情報共有している。	
36	—	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	救命訓練・誤嚥時対応を年に各1回実施している。マニュアルに基づく勉強会を行い職員全体に周知している。		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
37	16	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	利用者全員の参加や老人会の方にも参加を促し、消防署の協力も得て定期的に、日勤・夜勤帯における訓練を実施。訓練を通して問題点を洗い出しを行い、利用者の命を守る対策に繋げている。併設の施設との協力体制も構築している。	訓練は年間に6回実施している。その中で風水害や夜間災害を想定したり消防署の協力も得て訓練している。地域からも毎回5~6人の協力があり、避難した際の見守り等を依頼している。非常用備品も併設施設と協力体制が構築されている。	
【IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援】					
38	17	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者が居室にいる時や入浴・排泄時は、特にプライバシーに配慮した同姓介助を基本として、言葉かけにも、尊厳を傷つけないように配慮している。	入室前にノックする、トイレ介助の際はドアを閉める、郵便物は職員が勝手に開封せず、本人の目の前で開封するなど基本的な事に留意している。また写真を撮る際は、SNSからの流失を防ぐため、職員個人の携帯は使用しないと決めている。プライバシー保護についての内部研修も実施されている。	
39	—	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	言葉かけは、意思が出せるように疑問系を意識している。入浴時の時間帯の選択、行事食のメニュー・レク(ドライブ・散歩)等については希望に沿った支援を行っている。		
40	—	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	それぞれの性格で過ごし方もある為、一人ひとりに合わせて行事参加を促したり、今したい事の洗濯が出来るようにしている。		
41	—	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	職員によりカットや白髪染めを行っている。男性は、毎日の髭剃りや整髪。女性は好みに応じてメイクを行っている。		
42	18	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者の状況に合わせた食形態を考慮したり、好みにしているパン食や行事食のメニュー等に配慮している。食事の準備・調理・盛り付け・配膳・下膳・後片付けも無理のない範囲で手伝ってもらっている。	栄養士を配し、利用者の個別の希望に応じている。例えば、焼き魚が苦手な方は、煮魚に変更したり、パンが好きな方の為に、毎週土曜日は、パンの日にする等の工夫をしている。利用者は施設の畑でできる野菜を調理する等、とても好評である。野菜の皮むきやテーブル拭き、片付けなどを利用者と共にしている。	

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	—	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	基本的なカロリー計算は、食材業者が中心となって行っている。アルブミン値を定期受診で測定し栄養状態の把握をしている。毎日の食事・水分(種類)摂取量をIpadに入力し、日々の栄養管理を行っている。		
44	—	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後の歯磨き・口腔ケアは習慣化している。利用者の方の能力に応じた支援で清潔保持に努めている。義歯使用者は、夕食後に預り義歯洗浄剤を使用し洗浄・除菌をしている。		
45	19	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄パターンを把握しトイレの声掛け・仕草や表情・行動から判断し誘導を実施している。リハビリパンツや紙おむつを使用しないで済むように支援している。	立位が保てれば、基本オムツは使用していない。排泄パターンを把握し、しぐさや表情などから察知して、声かけ誘導を行っている。その成果として、利用者ほぼ全員昼間は布パンツである。100歳の方も昼間は布パンツで過ごし、夜のみパットを使用している。	
46	—	○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便の形態や排便間隔をIpadに記入し水分摂取量を確認、把握している。腹部マッサージや体操を行ないながら便秘予防に努めている。		
47	20	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった入浴の支援をしている	毎日入浴が行なえる様に支援している。希望時間や体調に合わせての入浴支援を行っている。	本人の希望に沿って、毎日でも入浴できるように準備している。入浴を拒否される方には、声かけを工夫して、最低週2回は入浴が実施できるように支援している。 湯船に、ゆずや入浴剤等で、楽しく入浴できるように工夫している。	
48	—	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	基本は、薬を服用せず安眠できるように心掛けている。本人が眠くなったら眠るようにしているが、寝つきの悪い時や不穏時には、和室を使用。お茶やホットミルク等を提供し会話をしながらリラックスできるようにしている。		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	—	○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬介助は、名前・顔・日にち 朝・昼・夕の確認を声を出して行い、飲み込むまでの確認を徹底している。追加処方の場合は状態を細かく観察し変化があれば直ぐに連絡し受診を行なっている。		
50	—	○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	会話の中から、得意なことや興味のある事を引き出して、日々の生活に楽しみや気分転換の支援をしている。		
51	21	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	行事だけではなく、本人の希望により個別にショッピングに行かされている。季節の花見学やその時々に応じている。	古民家を利用した食堂で、外食に月2-3回出かける。季節に応じて、花見やぶどう狩りなどのバスハイクを月1回程度実施している。冬は毎年近隣のイルミネーションを見学に行っている。利用者の希望に応じて、お寺参りや買い物外出を実施し希望にそった支援を行っている。	
52	—	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	金銭管理が可能な方には、自己管理をしてもらっている。出来ない方には、ショッピング等で、お金を手渡し支払いが出来るようにしている。		
53	—	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	毎月、行事予定表や定期的に写真やふくち便りを家族に送り利用者様の様子がわかるようにしている。電話をかけたい場合は、自由にかけてもらっている。		
54	22	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	日当たりのよい食堂・ウッドデッキがあり日中、日差しが強い時はレースやカーテンや日よけで遮断している。換気には配慮し、トイレの尿臭などしないようにこまめに清掃している。	廊下などに適度にソファや椅子が設置され、自由に腰かけて、外の景色が眺められるように工夫されている。その位置も食堂から職員が見守りが出来る様に工夫されている。カーテンで光の調整をするなど居心地の良い空間づくりの工夫をされている。	

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
55	—	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	廊下ソファ・玄関ベンチ・和室・食堂など、それぞれ思い思いの過ごし方が出来るように場所を確保している。		
56	23	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	馴染みの品・思い出の品・家族の写真・お孫さんからのプレゼント、季節の花やレクリエーションで造った作品等を居室に飾り置くことで、安心感や居心地のよさを感じてもらえるようにしてる。	思い出の写真や作品などの持ち込みは自由で、本人が使い慣れたテレビや布団をそのまま使ってもらっている。100歳の利用者が自分の部屋が分からず、いつも迷っておられたが、花嫁道具のタンスを自宅から持ってきて設置してからは、迷わなくなったという事もある。個室の中が廊下から見えないようにのれんを下げ、プライバシーも守っている。居心地よく過ごしてもらえるように工夫している。	
57	—	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能やわかる力を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	ホーム内は全てバリアフリーになっている。必要箇所には手すりの設置。トイレは4ヶ所設置され、センサー式蛇口の洗面所・滑り止めマットを使用した浴槽がある。		

項目番号		項 目	取 り 組 み の 成 果			
自己	外部		(該当する箇所を○印で囲むこと)			
V サービスの成果に関する項目（アウトカム項目）						
58	—	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：25, 26, 27)	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者の		
			<input type="radio"/>	②利用者の2/3くらいの		
			<input type="radio"/>	③利用者の1/3くらいの		
			<input type="radio"/>	④ほとんど掴んでいない		
59	—	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：20, 40)	<input type="radio"/>	①毎日ある		
			<input type="radio"/>	②数日に1回程度ある		
			<input type="radio"/>	③たまにある		
			<input type="radio"/>	④ほとんどない		
60	—	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：40)	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が		
			<input type="radio"/>	②利用者の2/3くらいが		
			<input type="radio"/>	③利用者の1/3くらいが		
			<input type="radio"/>	④ほとんどいない		
61	—	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目：38, 39)	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が		
			<input type="radio"/>	②利用者の2/3くらいが		
			<input type="radio"/>	③利用者の1/3くらいが		
			<input type="radio"/>	④ほとんどいない		
62	—	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目：51)	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が		
			<input type="radio"/>	②利用者の2/3くらいが		
			<input type="radio"/>	③利用者の1/3くらいが		
			<input type="radio"/>	④ほとんどいない		
63	—	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごさせている。 (参考項目：32, 33)	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が		
			<input type="radio"/>	②利用者の2/3くらいが		
			<input type="radio"/>	③利用者の1/3くらいが		
			<input type="radio"/>	④ほとんどいない		
64	—	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らさせている。 (参考項目：30)	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が		
			<input type="radio"/>	②利用者の2/3くらいが		
			<input type="radio"/>	③利用者の1/3くらいが		
			<input type="radio"/>	④ほとんど掴んでいない		

項目番号		項 目	取 り 組 み の 成 果			
自己	外部		(該当する箇所を○印で囲むこと)			
V サービスの成果に関する項目（アウトカム項目）						
65	—	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目：9, 10, 21)	○	①ほぼ全ての家族と		
				②家族の2/3くらいと		
				③家族の1/3くらいと		
				④ほとんどできていない		
66	—	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：2, 22)	○	①ほぼ毎日のようにある		
				②数日に1回程度ある		
				③たまにある		
				④ほとんどない		
67	—	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)	○	①大いに増えている		
				②少しずつ増えている		
				③あまり増えていない		
				④全くいない		
68	—	職員は、生き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)	○	①ほぼ全ての職員が		
				②職員の2/3くらいが		
				③職員の1/3くらいが		
				④ほとんどいない		
69	—	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	○	①ほぼ全ての利用者が		
				②利用者の2/3くらいが		
				③利用者の1/3くらいが		
				④ほとんどいない		
70	—	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	○	①ほぼ全ての家族等が		
				②家族等の2/3くらいが		
				③家族等の1/3くらいが		
				④ほとんどいない		

項目番号		項目	自己評価	外部評価	
自己	外部		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
【I 理念に基づく運営】					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	“人権尊重” “能力発揮” “地域交流” の3本柱で成り立っている。実践のため年度目標を定め職員と共に、日々のサービス提供に努めている。		
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	新型コロナウイルス発症前は、小学校、保育園からの行事への招待はあったが、現在は、月1～2回の老人会の方やボランティアが参加される畑の日のみになっている。		
3	—	○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	ホームと地域の窓口になっている“ふくちの日”に民生委員の方に参加して頂いていたが、新型コロナウイルス緊急事態宣言からは電話などでホーム内容等を伝えている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議にて提案された内容については、前向きに対応しサービスの向上に努めている。		
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議を通じて行政担当者や包括支援センターの担当者と意見交換を行っている。		
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	拘束廃止検討委員会を設け、身体拘束や言葉の拘束だけではなく、青アザ発生状況についても観察し青アザ予防が出来るように取り組んでいる。		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7	—	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされないよう注意を払い、防止に努めている	拘束廃止検討委員会を設置し、様々な角度からの検討を重ね虐待防止に努めている。		
8	6	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	折に触れ、日常生活自立支援事業や成年後見人制度について話し合っている。		
9	—	○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約または改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時及び解約時には、利用者や家族には事前に説明を行っている。		
10	7	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議に利用者代表、家族代表に出席して頂き、運営に反映させている努力をしている。家族の面会時に、意見や提案などを確認しサービスに反映している。		
11	8	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員会議や委員会やその他の機会を設け職員と様々な問題について話し合っている。必要に応じて個別でも話し合いを行っている。		
12	—	○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	人事考課制度を取り入れている。職員個々に応じた職務目標設定、達成度の確認・評価・面談を行い、向上心を持って働けるように環境づくりには努めている。		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
13	9	○人権の尊重 法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。 また、事業所で働く職員についても、その能力を発揮していき生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保障されるよう配慮している	職員募集・採用時には、性別・年齢を問わないようにしている。職場では職員の特性に応じた役割分担を心掛けている。基本方針として定年まで働けるようにしている。		
14	10	○人権教育・啓発活動 法人代表者及び管理者は、利用者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる	人権教育の研修等には極力参加するようにはしている。利用者の尊厳に対する人権等の啓発活動については、ケアカンファレンス・朝礼・終礼を通じて行っている。		
15	—	○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	人事考課を導入している。職員一人ひとりの職務能力に応じた年間職務目標を、管理者・主任・職員面談の上で決定し年間を通して目標達成に取り組んでいる。		
16	—	○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム協議会に参加し、各々が抱えている問題に考察を重ね、サービス向上に取り組んでいる。現在は、電話等で情報の交換をおこなっている。		
【Ⅱ 安心と信頼に向けた関係づくりと支援】					
17	—	○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入所相談に来られた時より、本人様やご家族が安心して話の出来る環境作り、不安や困っていること要望に傾聴していく事で、本人様が置かれている状況を理解するように努めている。		
18	—	○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入所相談に来られた時より、これまでのご家族様の苦労を労い、入所希望に至った経緯等に傾聴するようにしている。その上で、ご家族様の立場に立ち共に協力し合っていける関係作りに努めている。		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
19	—	○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	相談内容に応じ必要と思われる場合は、他のサービスの説明や他の事業所、病院等の紹介も行っている。		
20	—	○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	本人様との会話の中から生活歴や、出来る事や得意なこと興味を持っている事は、本来の力が発揮できるように支援し、居室の清掃や食事の後片付け、洗濯物干しやたたみ等を共に行くように心掛けている。		
21	—	○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	通常は、面会に来て頂く様に声掛けを行っている。特に、誕生日会や夏祭り、敬老会や家族会には参加していただけるようにしている。遠方のご家族の方には、電話や便りにて状況を知らせていたが、現在は面会も予約制の為、近くのご家族様にも電話や便りにて状況を知らせている。		
22	11	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	家族や本人様にとっての関係が深い方が、気兼ねなく訪問できるように心がけ、知人や友人との交流が途切れないように支援している。		
23	—	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士の関わりが深まるように、居室で過ごす事を極力控え、食堂や廊下ソファ等で過ごせるように支援している。		
24	—	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	入院や併設施設に移転されても面会に行ったり、ご家族とも連絡を取り合い訪問する機会を設けてたりして、より良い人間関係を保っている。		

項目番号		項目	自己評価	外部評価	
自己	外部		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
【Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント】					
25	12	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	日々の関わりの中で、本人様の生活・職歴・病歴・生き抜いてきた足跡等を見出し、本人様の思いや生きがい等の核心に触れることが出来るように心掛けている。		
26	—	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人様、ご家族様の関わりの中で生活歴・暮らし方・生活環境を把握しサービスを提供している。		
27	—	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	利用者一人ひとりの生活リズム、体調、気分の変化を確認しながらサービスの実践をしている。		
28	13	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人様、ご家族様の要望を聞き取った後に、計画作成担当者が中心となり、カンファレンスにて協議し、本人様・ご家族様の意向に基づいた利用者本意の計画を作成している。		
29	—	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個々の食事・水分・排泄・バイタル等の身体状況・日々の暮らしの様子、気付きをIpadに入力し記録している。Ipadで全利用者のデータが見れるので、申し送りとして朝礼・終礼時、情報の共有し継続したケアを行っている。		
30	—	○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	利用者の状況に応じご家族と相談しながら早期の病院受診や定期受診を行ない安心して生活が送れるように心掛けている。個別ショッピング・バスハイク等を導入している為個別の要望に応じた対応をしている。		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
31	—	○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	運営推進会議を通じ行政、地域福祉関係者より助言を頂き日々のサービスに提供に生かしている。		
32	14	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	協力病院はあるが、本人かかりつけ医があれば、基本的には医療が受けられるようにしている。		
33	—	○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	併設施設の看護師、協力病院看護師と連携を図っている。		
34	—	○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入院時は、病院側に本人の特徴・生活状況等を伝え認知症の進行や身体機能の低下に配慮しながら、主治医・担当SW・ご家族と情報交換を行い、早期退院に努めている。		
35	15	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化した場合は、本人・ご家族の希望を重視し今後の方針を、ご家族、主治医と連携をとりながら検討するようにしている。		
36	—	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	救命訓練・誤嚥時対応を年に各1回実施している。マニュアルに基づく勉強会を行い職員全体に周知している。		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
37	16	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	利用者全員の参加や老人会の方にも参加を促し、消防署の協力も得て定期的に、日勤・夜勤帯における訓練を実施。訓練を通して問題点を洗い出しを行い、利用者の命を守る対策に繋げている。併設の施設との協力体制も構築している。		
【IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援】					
38	17	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者が居室にいる時や入浴・排泄時は、特にプライバシーに配慮した同姓介助を基本として、言葉かけにも、尊厳を傷つけないように配慮している。		
39	—	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	言葉かけは、意思が出せるように疑問系を意識している。入浴時の時間帯の選択、行事食のメニュー・レク（ドライブ・散歩）等については希望に沿った支援を行っている。		
40	—	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	それぞれの性格で過ごし方もある為、一人ひとりに合わせて行事参加を促したり、今したい事の洗濯が出来るようにしている。		
41	—	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	職員によりカットや白髪染めを行っている。男性は、毎日の髭剃りや整髪。女性は好みに応じてメイクを行っている。		
42	18	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者の状況に合わせた食形態を考慮したり、好みにしているパン食や行事食のメニュー等に配慮している。食事の準備・調理・盛り付け・配膳・下膳・後片付けも無理のない範囲で手伝ってもらっている。		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	—	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	基本的なカロリー計算は、食材業者が中心となって行っている。アルブミン値を定期受診で測定し栄養状態の把握をしている。毎日の食事・水分(種類)摂取量をIpadに入力し、日々の栄養管理を行っている。		
44	—	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後の歯磨き・口腔ケアは習慣化している。利用者の方の能力に応じた支援で清潔保持に努めている。義歯使用者は、夕食後に預り義歯洗浄剤を使用し洗浄・除菌をしている。		
45	19	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄パターンを把握しトイレの声掛け・仕草や表情・行動から判断し誘導を実施している。リハビリパンツや紙おむつを使用しないで済むように支援している。		
46	—	○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便の形態や排便間隔をIpadに記入し水分摂取量を確認、把握している。腹部マッサージや体操を行ないながら便秘予防に努めている。		
47	20	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった入浴の支援をしている	毎日入浴が行なえる様に支援している。希望時間や体調に合わせての入浴支援を行っている。		
48	—	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	基本は、薬を服用せず安眠できるように心掛けている。本人が眠くなったら眠るようにしているが、寝つきの悪い時や不穏時には、和室を使用。お茶やホットミルク等を提供し会話をしながらリラックスできるようにしている。		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	—	○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬介助は、名前・顔・日にち 朝・昼・夕の確認を声を出して行い、飲み込むまでの確認を徹底している。追加処方の場合は状態を細かく観察し変化があれば直ぐに連絡し受診を行なっている。		
50	—	○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	会話の中から、得意なことや興味のある事を引き出して、日々の生活に楽しみや気分転換の支援をしている。		
51	21	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	行事だけではなく、本人の希望により個別にショッピングに行かされている。季節の花見学やその時々に応じている。		
52	—	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	金銭管理が可能な方には、自己管理をしてもらっている。出来ない方には、ショッピング等で、お金を手渡し支払いが出来るようにしている。		
53	—	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	毎月、行事予定表や定期的に写真やふくち便りを家族に送り利用者様の様子がわかるようにしている。電話をかけたい場合は、自由にかけてもらっている。		
54	22	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	日当たりのよい食堂・ウッドデッキがあり日中、日差しが強い時はレースやカーテンや日よけで遮断している。換気には配慮し、トイレの尿臭などしないようにこまめに清掃している。		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
55	—	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	廊下ソファ・玄関ベンチ・和室・食堂など、それぞれ思い思いの過ごし方が出来るように場所を確保している。		
56	23	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	馴染みの品・思い出の品・家族の写真・お孫さんからのプレゼント、季節の花やレクリエーションで造った作品等を居室に飾り置くことで、安心感や居心地のよさを感じてもらえるようにしてる。		
57	—	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能やわかる力を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	ホーム内は全てバリアフリーになっている。必要箇所には手すりの設置。トイレは4ヶ所設置され、センサー式蛇口の洗面所・滑りとめマットを使用した浴槽がある。		

項目番号		項 目	取 り 組 み の 成 果			
自己	外部		(該当する箇所を○印で囲むこと)			
V サービスの成果に関する項目 (アウトカム項目)						
58	—	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：25, 26, 27)	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者の	<input type="radio"/>	②利用者の2/3くらいの
			<input type="radio"/>	③利用者の1/3くらいの	<input type="radio"/>	④ほとんど掴んでいない
			<input type="radio"/>	①毎日ある	<input type="radio"/>	②数日に1回程度ある
			<input type="radio"/>	③たまにある	<input type="radio"/>	④ほとんどない
59	—	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：20, 40)	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が	<input type="radio"/>	②利用者の2/3くらいが
			<input type="radio"/>	③利用者の1/3くらいが	<input type="radio"/>	④ほとんどいない
			<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が	<input type="radio"/>	②利用者の2/3くらいが
			<input type="radio"/>	③利用者の1/3くらいが	<input type="radio"/>	④ほとんどいない
60	—	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：40)	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が	<input type="radio"/>	②利用者の2/3くらいが
			<input type="radio"/>	③利用者の1/3くらいが	<input type="radio"/>	④ほとんどいない
			<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が	<input type="radio"/>	②利用者の2/3くらいが
			<input type="radio"/>	③利用者の1/3くらいが	<input type="radio"/>	④ほとんどいない
61	—	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目：38, 39)	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が	<input type="radio"/>	②利用者の2/3くらいが
			<input type="radio"/>	③利用者の1/3くらいが	<input type="radio"/>	④ほとんどいない
			<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が	<input type="radio"/>	②利用者の2/3くらいが
			<input type="radio"/>	③利用者の1/3くらいが	<input type="radio"/>	④ほとんどいない
62	—	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目：51)	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が	<input type="radio"/>	②利用者の2/3くらいが
			<input type="radio"/>	③利用者の1/3くらいが	<input type="radio"/>	④ほとんどいない
			<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が	<input type="radio"/>	②利用者の2/3くらいが
			<input type="radio"/>	③利用者の1/3くらいが	<input type="radio"/>	④ほとんどいない
63	—	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：32, 33)	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が	<input type="radio"/>	②利用者の2/3くらいが
			<input type="radio"/>	③利用者の1/3くらいが	<input type="radio"/>	④ほとんどいない
			<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が	<input type="radio"/>	②利用者の2/3くらいが
			<input type="radio"/>	③利用者の1/3くらいが	<input type="radio"/>	④ほとんどいない
64	—	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている。 (参考項目：30)	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が	<input type="radio"/>	②利用者の2/3くらいが
			<input type="radio"/>	③利用者の1/3くらいが	<input type="radio"/>	④ほとんど掴んでいない
			<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が	<input type="radio"/>	②利用者の2/3くらいが
			<input type="radio"/>	③利用者の1/3くらいが	<input type="radio"/>	④ほとんど掴んでいない

項目番号		項 目	取 り 組 み の 成 果			
自己	外部		(該当する箇所を○印で囲むこと)			
V サービスの成果に関する項目 (アウトカム項目)						
65	—	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目：9, 10, 21)	○	①ほぼ全ての家族と		
				②家族の2/3くらいと		
				③家族の1/3くらいと		
				④ほとんどできていない		
66	—	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：2, 22)	○	①ほぼ毎日のようにある		
				②数日に1回程度ある		
				③たまにある		
				④ほとんどない		
67	—	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)	○	①大いに増えている		
				②少しずつ増えている		
				③あまり増えていない		
				④全くいない		
68	—	職員は、生き生きと働いている。 (参考項目：11, 12)	○	①ほぼ全ての職員が		
				②職員の2/3くらいが		
				③職員の1/3くらいが		
				④ほとんどいない		
69	—	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	○	①ほぼ全ての利用者が		
				②利用者の2/3くらいが		
				③利用者の1/3くらいが		
				④ほとんどいない		
70	—	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	○	①ほぼ全ての家族等が		
				②家族等の2/3くらいが		
				③家族等の1/3くらいが		
				④ほとんどいない		